

Newsletter

No. 37 March 31 2020

東京医科歯科大学ラテンアメリカ共同研究拠点

チリにおける新型コロナウイルスの状況

本年1月に中国で顕在化した新型コロナウイルスは、今や世界中に感染が拡大し、世界規模の問題となっています。

2月後半にブラジルで南米大陸初の感染者が報告されるまで、連日ニュースなどでは報道はあるものの、どこか対岸の火事のような状況で緊張感なく経過していました。

南米大陸への感染拡大により、チリの医療機関でも新型コロナウイルス患者への対策などが議論されるようになり、クリニック・ラス・コンデス（以下、CLC）でも、職員を対象とした新型コロナウイルス対策の講習会が開催されました。

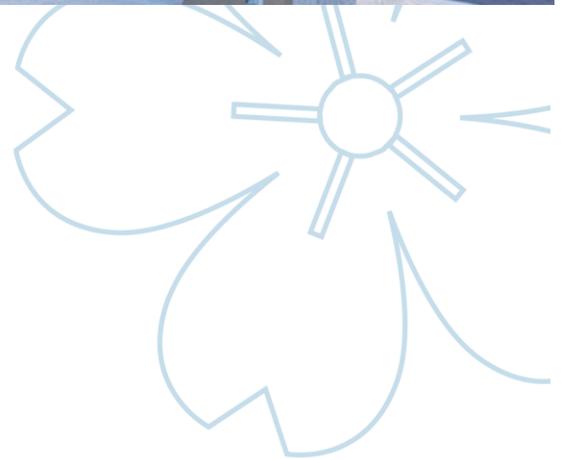
3月3日、休暇で東南アジア諸国を訪れた旅行者が帰国後にチリで初の感染者として報告されると、その後も、ヨーロッパやアジアなどの感染地域からの帰国者や家族、濃厚接触者を中心に新規感染者が増加し、3月中旬には感染経路が特定できない症例が急激に増加しました。3月18日にチリ政府は災害事態宣言（Estado de Catástrofe）を発令しました。これを受けて、国境閉鎖、教育機関の休校、商業施設の営業制限、公園などの公共施設の閉鎖、イベントの中止や延期、テレワークの推奨などの対策が始まりました。

感染者の増加のスピードが収まることがなかったため、3月下旬には症例数の多い地域を中心に全国各地で義務的外出制限が開始されました。

CLCがあり我々の住むラス・コンデス地区やサン・ボルハ病院があるセントロ地区も義務的外出制限の対象地域となったため、3月下旬から大腸癌早期診断プロジェクト（以下、PRENEC）の臨床活動は休止状態となりました。参加予定であったチリ国内の研究会なども全て中止となり、隣国のパラグアイで予定していたPRENEC開始に向けたシンポジウムも中止となりました。ジョイント・ディグリー・プログラム（以下JDP）の医学部長会議、チリ人JDP学生及びチリ大学医学部学生の本学への留学、国際シンポジウムENDOSURなどの延期も既に決まっています。

刻々と状況が変わっていくため先を予測することは困難ですが、恐らく4月以降も感染者が増加していくと思われます。チリや日本だけでなく、世界中の新型コロナウイルスによる犠牲者が最小限にとどまり、少しでも早い事態の収束と平穏な日常がもどってくることを願っています。

小田柿 智之 消化器病態学分野



LACRC TMDU
IN CHILE
Latin American Collaborative Research Center
Santiago de Chile



Contents

新型コロナウイルスの状況.....	1
PRENECの進捗状況.....	2
離任ご挨拶.....	3
活動報告.....	4

PRENECの進捗状況

大腸癌早期診断プロジェクト(PRENEC)の最新情報をご報告いたします。本年1月から新たにアントファガスタでPRENECが開始されました。プンタ・アレナス、サンティアゴ、バルパライソ、バルディビア、オソルノ、コキンボ、コンセプションの既存の7拠点に続く、国内8番目の拠点となりました。しかしながらバルパライソとコンセプションでは、運営に関する問題が生じており、現在休止状態となっています。国外ではパラグアイで、PRENECの開始に向けての準備が進んでいます。

アントファガスタにおけるPRENECの開始



アントファガスタのPRENECスタッフ

アントファガスタは、第2州、チリの北部にある人口約38万人の海沿いの都市です。

アントファガスタにあるグスマン病院とは、2016年にPRENECの拠点となるための調印を交わしたものの、州政府からの予算が獲得できず進捗がありませんでした。昨年になって予算面の準備が整ったため、グスマン病院の医療チームに対してPRENECを運営する上での手順や注意事項などの講習会をCLCで開催した後、本年1月からPRENECが開始されました。

新型コロナウイルスのチリ国内での感染拡大によって、現在は休止状態ですが、登録した患者に免疫学的便潜血反応検査を行い、陽性患者には大腸内視鏡検査が順次行われていく予定です。



啓発イベントにおける患者登録の様子



グスマン病院

Staff

2014年11月よりLACRCの業務に従事してきた小田柿智之助教が3月をもって離任されることとなりました。

離任挨拶

小田柿 智之 LACRC 消化器病態学分野

2020年3月をもって離任することになりましたので御挨拶させていただきます。

2014年11月20日にラテンアメリカ共同研究拠点(LACRC)に着任し、約5年5か月もの間、チリでの業務に従事させていただきました。

私のチリでの主業務は、大腸がん早期診断プロジェクト(PRENEC)のサンティアゴの拠点であるサン・ボルハ病院で、現地医師に大腸内視鏡検査・治療の指導をすることでした。赴任期間中に計20名のPRENEC専属の研修医師を受け入れ、彼らへの指導のため2000件以上の大腸内視鏡検査を担当しました。

また、日本では標準治療である早期がんに対する内視鏡的粘膜下層剥離術(ESD)が、チリでは殆ど普及していなかったため、サン・ボルハ病院にESDを導入し、約80症例の治療を行いました。サンティアゴだけでなくチリ全土から患者の紹介があり、昨年からはESDのための研修医師も受け入れて技術移転に勤めてきました。

私はチリに赴任する前、国立がん研究センター中央病院・東病院の消化管内視鏡科で内視鏡検査・治療に従事していました。内視鏡の分野は日本が世界をリードしていることもあり、自分が学んできた知識や技術を異国で役立てたいという思いから、LACRCへの赴任者として手を挙げさせて頂き、今に至っています。

赴任当初は、「日本だったら」という考えが全く抜けておらず、合理性や理想ばかりを優先し、もどかしい気持ちから現地のスタッフと衝突することもしばしばありました。しかし、チリの公立病院のシステムや医療保険制度を勉強し、文化や考え方の違いなどが理解できるようになるにつれ、チリの医療システムに適応して、その中で出来得る活動を心掛けるようになりました。異国の医療の発展に貢献するために現地に赴任しているのにもかかわらず、どこか「日本から指導にきてあげている」という驕りがあったのではないかと思います。徐々に考え方が変わり、相手を尊重していくことで、現地の方々は自然と受け入れてくださるようになり、積極的に私の業務に配慮してくださるようになりました。ここ数年は、「研修医師への指導」と「現地医師が対応困難な症例の内視鏡治療」が、サン・ボルハ病院の内視鏡チームの一員としての私の業務となり、周囲の皆が支えてくださったことで、やりがいのある充実した日々を過ごすことができました。

上述したサン・ボルハ病院の方々だけでなく、色々と相談に乗って頂いたPRENECの責任者のロベス医師やクリニカ・ラス・コンデス(CLC)の大腸肛門外科チームの方々、2018年度から大学院生と

して入学した Joint Degree Programでの基礎演習等の指導をしてくださったCLCの研究員の方々、LACRCの環境を整備してくださった前任の方々、公私ともにお世話になったLACRC事務補佐の方々など、チリで関わった全ての人に心より感謝いたします。そして、常に一緒にいてくれた妻と3人の子供達のお陰で異国でも寂しい思いをすることがなく、楽しい思い出を沢山作ることができました。この赴任期間は、私にとって一生の宝になると思います。

帰国後は、本学の消化器内科に所属します。日本からになりますが、引き続き、LACRCの活動に携わり、チリの医療に貢献することができればと切に願っています。

最後になりますが、チリでの新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、3月18日に政府は災害事態宣言(Estado de Catástrofe)を発令しました。サンティアゴを含む全国各地で義務的外出制限(Cuarentena total)が開始され、現在も続いています。その影響で予定していた帰国ができず、4月以降に延期されました。また、このような状況に急になってしまったため、チリでお世話になった方々にきちんとした挨拶ができていないことが大きな心残りとなっています。

新型コロナウイルスが収束し、お世話になった方々に再会できる日が一日でも早く来ることを祈念しつつ、離任の挨拶とさせていただきます。



サン・ボルハ病院のスタッフと記念撮影

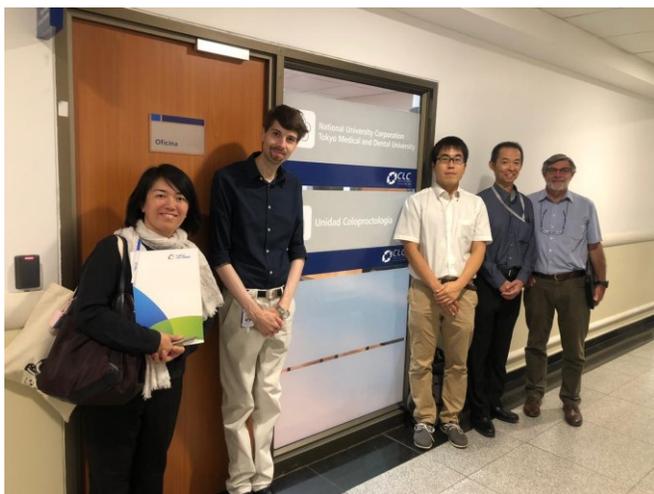
LACRC活動報告

JICA健康管理員のCLC見学

1月27日、南米のJICA職員の健康管理を担当するJICAボリビアの濱口陽子氏が、JICAチリ職員の傷病時の対応に適した医療機関を調査する目的でCLCを訪れました。LACRCから小田柿助教とハイメ事務補佐員も同行し、CLCの渉外担当者の案内の下、救急外来、ICU、ヘリポートを見学しました。

見学終了後、小田柿助教が、JDPの実習で通っている研究室やLACRCオフィスを紹介しました。

今回、お越しいただいた濱口陽子氏は、JICAボリビアに健康管理員として3年にわたり従事されており、以前、小田柿助教が、ボリビアを出張で訪れた際に大変お世話になりました。本年2月をもって任期を終えられるとのことで、今後の新天地での御活躍を祈念いたします。



LACRC拠点前にて、濱口氏(写真左)らとの記念撮影



CLC救急外来の様子

編集後記

長きにわたりご活躍されてきた小田柿助教が帰任の運びとなりました。

LACRC開設から今までの先生方が築き上げた、歴史ある本拠点の運営に、ハイメ事務補佐員とともに、今まで以上に力を合わせて取り組んでいく所存でありますので、ご声援いただけましたら幸いです。今後もNewsletterを通してチリの様子をお伝えしてまいります。より良い誌面を作成する為、皆様からのご意見・ご要望がございましたら気軽にLACRCオフィスまでご連絡くださいませ。(早川美貴)

東京医科歯科大学ラテンアメリカ共同研究拠点
Latin American Collaborative Research Center
Newsletter No.37 March 2020

[発行日] 2020年3月31日

[制作] Latin American Collaborative Research Center
Tokyo Medical & Dental University
Clínica Las Condes
Lo Fontecilla 441, Las Condes, Santiago, Chile
Tel: (56-2) 2610 3780
Email: LACRC-CHILE.adm@cmn.tmd.ac.jp